

## 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター令和4年度業務実績評価（案）に対する分科会委員意見とその対応（案）

項目		委員意見	対応（回答）
5	医療の質の確保・向上 事務局評定：B（法人 A）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師等の専門資格の取得を推進したことは評価できる。</li> <li>・一方で、クリニカルパスについては、分析するだけでなく、分析した結果を踏まえて、改善につなげていくことが大事である。改善の成果が出てくれば、A 評価とする余地があるが、そこまで到達していないのであれば B 評価が妥当ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師や特定行為研修などの専門資格の取得を推進したことは評価できる。</li> <li>・一方、クリニカルパスについては、毎月、退院したパス適用患者の中でバリエーションになった件数を把握するとともに原因分析をし、クリニカルパス委員会にて報告を行うなど、分析・検証を進めているものの、今後、分析した結果を踏まえて改善に向けた取組を実施する必要があることから、都としても B 評価が適切と考える。</li> </ul>
7	地域連携の推進 事務局評定：A（法人 A） ※第 2 回分科会時点での事務局評定は B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関への訪問活動を強化し、目標値は達成できていないものの紹介率が向上してきていること、また、逆紹介率は目標値を大きく上回っていることなど、地域連携については法人の努力が窺えることから A 評価とする余地があるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携システムによる初診web 予約の積極的な活用や地域の医療機関への訪問活動の強化など、法人の努力により紹介率・逆紹介率が向上しており、地域連携を強化したことは評価できるため、都としても、A 評価とすることが適切と考える。 (第 2 回分科会時点での事務局評定案：B 評価から A 評価に修正)</li> </ul>
15	高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 事務局評定：A（法人 A）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイルサポート医の育成について、東京都全体に展開し、育成を推進していることは評価できるため、A 評価とする余地があるのではないか。</li> <li>・一方で、「健康長寿医療研修センター」の新設による具体的な効果がまだ見えていない中で、A 評価とするかどうかは検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康長寿医療研修センター」については、令和 4 年度に新設し、効率的・効果的な研修実施体制の整備を行ったところであり、具体的にどのような効果が出てくるのかは、今後継続的に注視していく必要がある。</li> <li>・一方で、フレイルサポート医の育成については、これまで板橋区を中心に実施していたものを、東京都医師会等と連携し、東京都全体に展開しており、専門人材の育成に貢献していることは評価できることから、都としては A 評価が適切と考える。</li> </ul>
17	適切な法人運営を行うための体制の強化 事務局評定：B（法人 B）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス研修の実施に当たっては、5 年に 1 度の頻度でよいのかを改めて検討する必要がある。また、受講率の向上に向けては、実施方法（集合形式だけでなく web 形式も取り入れる等）も含めて引き続き検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス研修の実施については、年に 10 回開催するなど、受講率の向上に努めているものの、更なる受講率の向上、コンプライアンスに対する意識向上に向け、研修頻度や実施方法について、引き続き、検討が必要であると都としても考え、評価案に趣旨を反映する。</li> </ul>
19	コスト管理の体制強化 事務局評定：A（法人 A）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括契約の導入など、契約の見直し等により、物価高騰の影響を受ける中においても工夫して経費削減を図ったことは評価できる。</li> <li>・一方で、費用が増加した項目については、増加理由をよく確認した上で、評価をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費の高騰による費用の増加や認知症未来社会創造センター事業・スマートウォッチ事業等の進捗等による委託費の増加はあったものの、物価高騰の影響を受ける中においてもベンチマークシステムの活用や契約方法の見直し等を図り、一定のコスト削減を実施していることを評価し、都としては、A 評価が適切と考える。</li> </ul>